むかしの高松 '97／3 第8号

発掘調査で何が出てくるの？

（高松市多肥上、下町　日暮・松林遺跡編）

発掘調査で何がでてくるの？発掘調査現場で作業していると，よくそのような質問をされます。以前に比べ，発掘調査の件数も増えてきた関係でご存じの方も多くなってきましたが，今回は，そのような質問にお答えして，都市計画道路の建設で発掘調査を行い，整理作業の終了した日暮・松林遺跡で見つかったものを中心に紹介します。

日暮・松林遺跡位置図
「国土地理院発行の２万５千分１地形図（高松南部）の一部を掲載」

●日暮・松林遺跡はどこにあるの？

以前はたんぼの中でしたが現在は道路になっています。目印としては，平成７年度に開校した県立高松桜井高校の東側に位置します。町名でいうと高松市多肥上，下町になります。近くには，弥生時代の地震による噴礫が発見された松林遺跡や，凹原遺跡（多肥下町），空港跡地遺跡（林町）などもあります。高松市内において弥生時代の遺跡が多く確認されている地域になります。

●日暮・松林遺跡では何がでてきたの？

いろいろな時代のものが見つかっています。そのことは，この場所が昔からよく利用されていた証拠になります。確認した遺構や遺物の量などから，遺跡の中心となる時期は，弥生時代中期（約2,000年前）であると考えられます。

確認された主なものとして次のようなものがあります。

弥生時代では　竪穴住居跡（一般的に普段の住まい），掘立柱建物跡（一般的に高床式倉庫）
井戸，溝，川跡，墓

古墳時代では　川跡から多量の土器（須恵器、土師器）

鎌倉時代では　溝（用水路），川跡から多量の土器（須恵器，土師器，黒色土器，瓦器，輸入磁器）

江戸時代では　木樋，溝

調査した遺跡が，道路建設にともなう発掘調査で，南北に長い調査地であることから，くわしくは次ページ以降で３地区に分けて説明します。

大解剖!! 日暮・松林遺跡 その1（B区）

日暮・松林遺跡の一番北の地区にあたります。北側が川跡で，南側では竪穴住居を中心とする集落跡を確認しました。南側の部分は川に近く，川が氾濫して土砂が多く堆積したためか，３面の生活面を確認しました。

B区で確認された川跡は（写真１）、現在は高松平野の西部を流れている香東川の昔の流路の一つです。川の底からは弥生土器（写真２）が出土しました。

川の南側には井戸と考えられる土坑も確認し，中からは弥生土器が出土しました（写真３）。

確認した竪穴住居跡は円形のものと，やや方形に近いものがあります（写真４）。竪穴住居跡の柱穴の位置も外形と同じく，四角いものや丸いものがあります（写真５）。

竪穴住居跡の近くで，掘立柱建物跡を確認しました（写真６）。柱の穴の中には，柱を固定するための河原石が入っていました。

竪穴住居跡の近くでは四角く溝で囲まれた墓が確認できました（写真７）。人が埋められていたと考えられる墓の中心部（墓壙）は残念ながら残っていませんでしたが，溝の中からは，墓に供えられていたと考えられる完形に近い弥生土器が多く出土しました（写真８）。竪穴住居跡，掘立柱建物跡と同時期と考えられる溝も多く確認できました（写真９）。しかし，これらの溝の用途は現在のところよくわかりません。農作業用の用水路なのかもしれません。

写真１

写真２

写真３

写真４

写真５

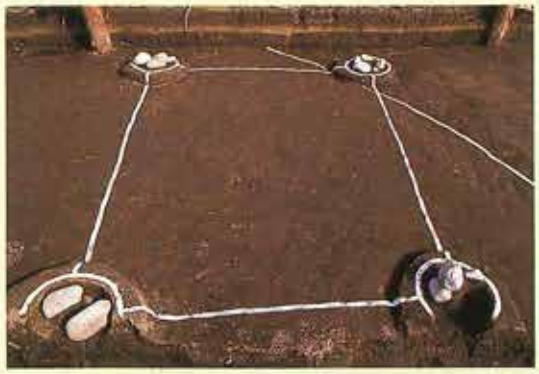
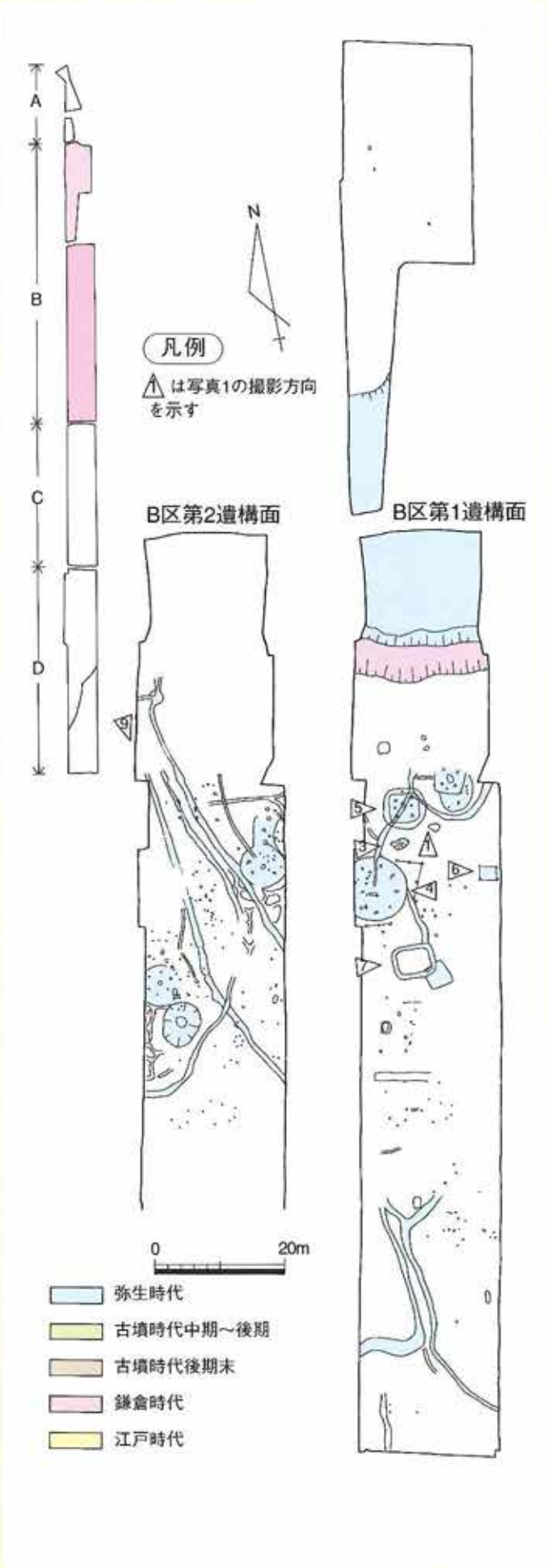


写真 6

写真 7

写真 8

写真 9

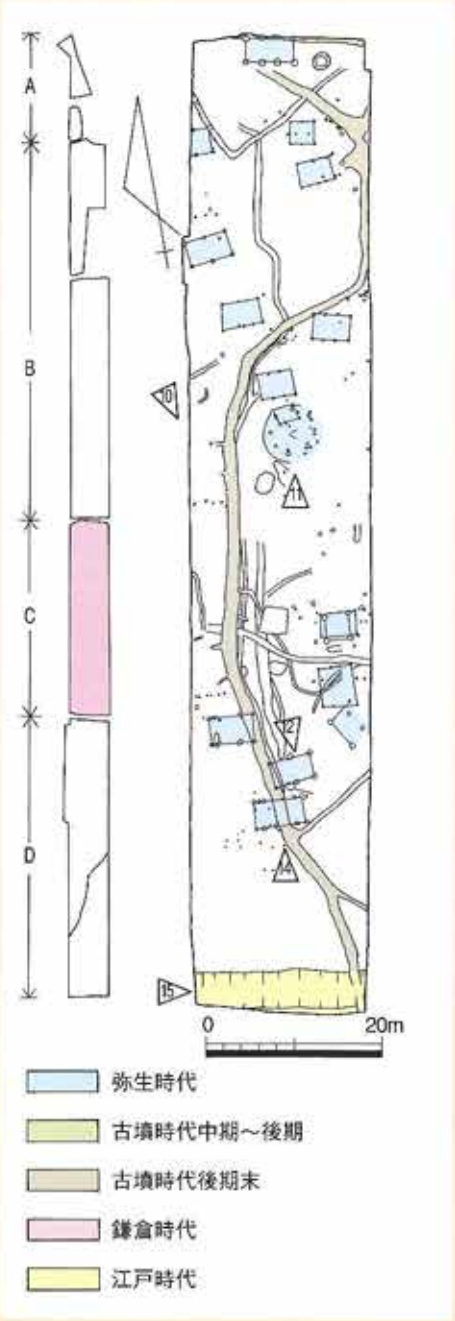


大解剖!! 日暮・松林遺跡 その2（C区）

この地区も，先ほどのB区と同様弥生時代の遺構が中心となります。北側のB地区とは違って，掘立柱建物跡（高床式倉庫も含まれる）が中心で（写真10），竪穴住居跡は一棟確認したのみです（写真11）。一般に竪穴住居は日常生活をする上での住まいであり，高床式倉庫は収穫物などを保管する施設です。推定の域をでませんが，C区で見つかった竪穴住居跡は掘立柱建物跡（高床式倉庫の可能性が高い）の中心部に位置することから，見張り小屋としての機能を持っていたのかもしれません。このような状況から日暮・松林の弥生の村は住居域と倉庫域が分かれていたと想定できます。写真12の掘立柱建物の柱穴の一つには，柱を抜き取った跡に土器がぎっしりと詰まっていました（写真13）。

この地区では，竪穴住居跡や、高床式倉庫跡の他に，中央部を蛇行する比較的大きな溝を確認しました（写真14）。溝から出土した遺物から，古墳時代後期（6世紀末～7世紀初期）頃の水路と考えられます。

時代は新しくなりますが，この地区の北端と南端で、中世から近世と考えられる東西方向の溝が確認できました（写真15）。この溝は，現在の高松平野の地割に合うもので，条里制に伴う溝と考えられます。



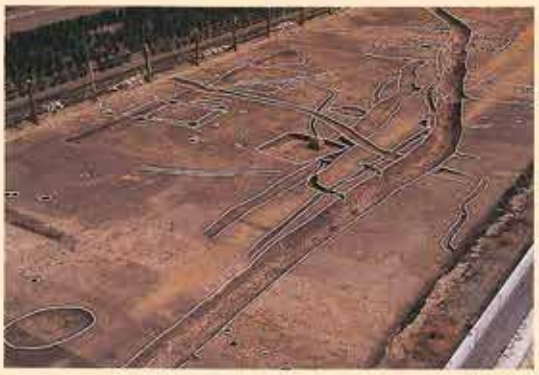


写真10

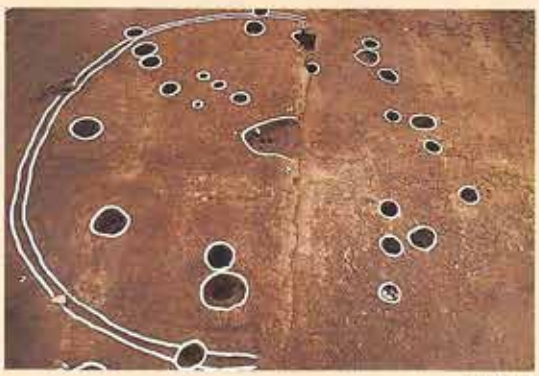


写真11

写真12

写真13

写真14

写真15

日暮・松林遺跡のできごと

この年表は文化庁編の『発掘された日本列島'96新発見考古速報』に掲載されている年表を参考に，日暮・松林遺跡で確認された遺構，遺物の時期を含めて作成してみました。参考にしてください。

年代	時代		主なできごと
五〇万年前	旧石器時代	前期	日本列島に人が住み始める
三万五〇〇〇年前		中期	石斧・ナイフ形石器
B.C.一一〇〇〇（一万三〇〇〇年前）		後期	縄文土器の使用
B.C.四〇〇〇	縄文時代	草創期	気候の温暖化・海水面の上昇
三〇〇〇		早期	各地に大規模な縄文集落が形成
二〇〇〇		前期	
一〇〇〇		中期	
B.C.三〇〇		後期	九州北部に水田稲作が伝わる
		晩期	
紀元前	弥生時代	前期	青銅器の製作 日暮・松林遺跡に弥生人が住み始める
紀元後〇		中期	日暮・松林遺跡の弥生集落が栄える 倭国の内乱が続く
A.D.三〇〇		後期	二三九年　邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送る 日暮・松林遺跡の弥生集落が衰える
四〇〇	古墳時代		巨大な前方後円墳の築造 D区の川に土器が棄てられる
五〇〇			五三八年　百済から仏像・経典が伝来 C区中央の南北水路が埋まる
六〇〇			六四五年　大化の改新
七〇〇	飛鳥時代		七一〇年　平城京に遷都
八〇〇	奈良時代		C・D区の条里方向の溝がつくられる
九〇〇	平安時代		
一〇〇〇			
一一〇〇			
一二〇〇	鎌倉時代		一一九二年　源頼朝、鎌倉幕府を開く D区の水路が作られる
一三〇〇	南北朝時代		
一四〇〇	室町時代		
一五〇〇	安土桃山時代		
一六〇〇	江戸時代		
一七〇〇			木樋を使った水路が作られる
一八〇〇			
一九〇〇	現在		※赤字は日暮・松林遺跡のできごと

大解剖!! 日暮・松林遺跡 その3（D区）

この地区では，B，C区で多く確認できた弥生時代中期の遺構を，北西部分で一部確認したにとどまり，鎌倉時代（１２世紀頃）の農業用の用水路と考えられる溝群を確認したほか（写真16），地区を南西から北東方向に流れる川の跡を確認しました（写真17）。川の底近くからは古墳時代中期末から後期初頭（５世紀末～６世紀初頭）に使われていた須恵器，土師器などの遺物（写真18、19），それよりも上の層からは，鎌倉時代の瓦器，土師器，黒色土器，須恵器などの日常生活に使われていた土器が多数出土しました。（写真20）。この川が埋った後，江戸時代頃と考えられる板材を組み合わせた木樋を利用した水路が確認できました（写真21）。

遺跡名の付け方

遺跡名は遺跡が所在する土地の小字名を付けることが一般的です。ただ，日暮・松林遺跡のように，遺跡が日暮と松林の二つの小字にまたがっていたために，二つの小字を併記しました。また，市内に同じ呼び名の小字が存在する場合は小字名の前に町名をつける場合もあります。

写 真 16

写 真 16

写 真 17

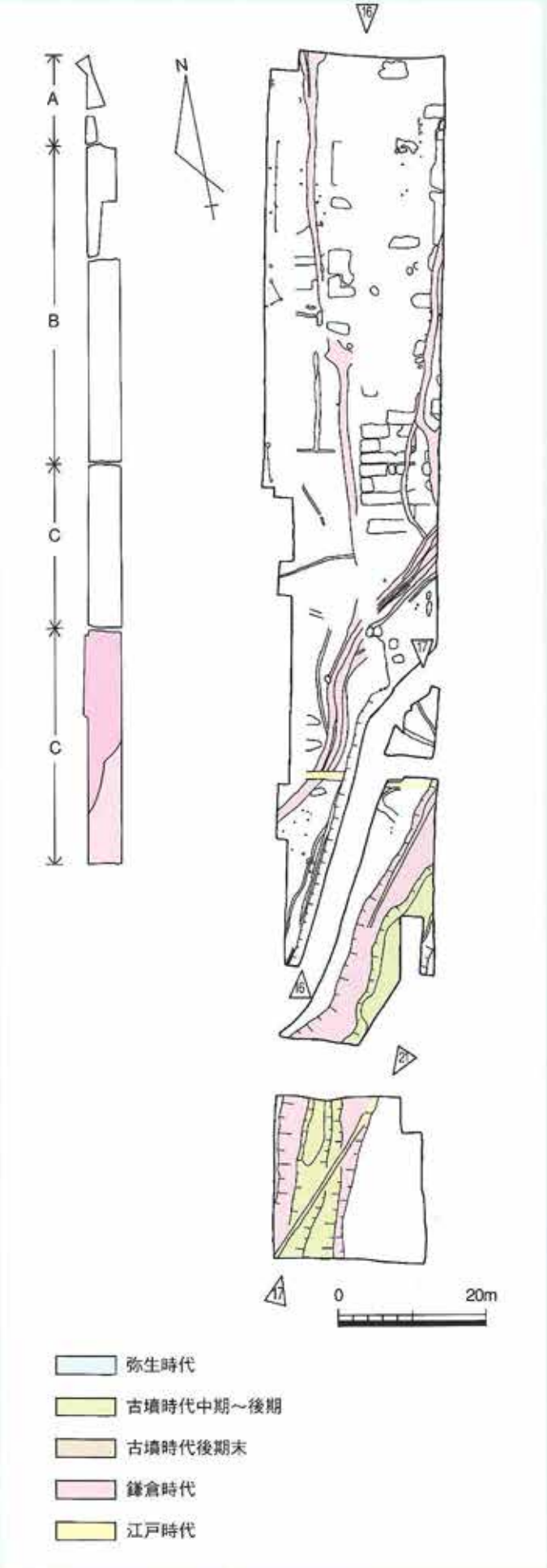
写 真 17

写真18

写真19

写真20

写真21

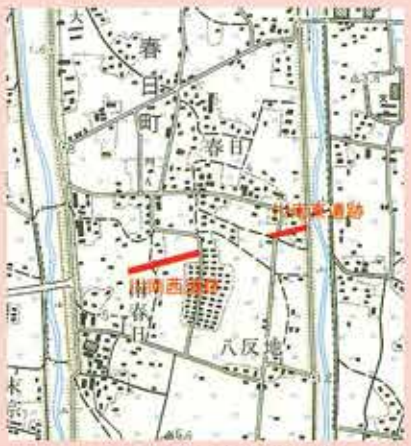


発掘調査現場速報　～平成８年度の調査から～

市内春日町で溝に囲まれた屋敷跡確認（川南西遺跡，川南東遺跡）

都市計画道路室町新田線建設に先だち，昨年の３月下旬から７月上旬にかけて発掘調査を行った川南西，川南東両遺跡のうち，川南西遺跡では方形に区画された溝の内側から多数の柱穴を確認しました。柱穴の一部には先端部が加工された、柱材の基部が残っているものもありました。また，多くの出土遺物の中から，刀の鍔（つば）も確認されており，武士の屋敷であった可能性も考えられます。

出土した土器などから中世後半（室町時代）から近世（江戸時代）初め頃の遺跡であることがわかりました。川南西、川南東両遺跡とも現在，出土遺物などの整理作業中です。詳しくは次号以降で……。



川南西、川南東遺跡位置図
「国土地理院発行の２万５千分１地形図（高松南部）の一部を掲載」

川南西遺跡

川南東遺跡

編集後記

特集として，日暮・松林遺跡で確認できた遺構・遺物を中心に紹介しました。いかがだったでしょうか。これからも市内で行われている発掘調査の成果を順次ご紹介していきたいと思います。ご意見ご感想をお願いします。（Y）

むかしの高松 第8号

1997.3.31

編　集／高松市教育委員会文化部文化振興課
高松市番町一丁目8番15号
☎39－2636
発　行／高松市教育委員会文化部文化振興課
印　刷／株式会社 中央印刷所